
タマテ B A K O

a Y a

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タマテBAKO

【Nコード】

N5521A

【作者名】

aYa

【あらすじ】

神の存在を否定し絶対に信じようとしない高校生…名前は呉^{くれ}乃^の夾^{きょう}夜^や。彼と神との熱い物語ッッ！！

1 神って何。紙？

神ってホントにいるのだろうか

『神様…どうかお母さんとお父さんを助けてください…。』

その時の俺の中には“神様”と言言葉が呪文のように繰り返し口にした。

助けてくれると信じて…。

AM 9：00

目が覚めた。

《とつても清々しい朝だ。まるで天使が舞い降りたような…》

「いやいや何が清々しく天使が舞い降りたような朝だよ！最悪だよさ・い・あ・くッ！！勝手なこと言ってんなよナレーター…」
「たたく目覚の悪イ朝だな…」

《てへっ ゴメンね♪》

なんで今ごろになってあんな夢…にしても昔の俺はあんなキューチクルな奴だったのか…ってそんなことじゃなくて…でも初めて見た

かも…俺ん家写真無いし。まあホントにあれが俺なのかは定かではないけどな。

ソファにドカッと座りテレビのスイッチをつけて部屋に音と色を加えた。

もうとつくに9時30分を過ぎていた。

こりゃ完全に遅刻だな…。

まあいつものことだけど。

「今日学校サボツちまおうかな…あ、でも俺遅刻多いから授業くらは受けねえとヤバイんだよなあ」

とりあえず制服に着替えたものの…。

「めんどくせー…」

いつも以上にダルイ。

ソファにもたれかかるように座り、1人暮らしにしては広すぎる部屋を見渡した。

こんなに広がったっけ…。

『神様…どうか僕のお母さんとお父さんを助けてください…』

クソが…何が神だ。
んなもんいるわけねえだろ。

後に俺は…その考えを覆すような出来事が起るとは…その時の俺は
これっぽっちも思っていなかった。

1 神って何。紙？（後書き）

なんか暗い。。。コメディーのはずなのに←←←これからもっと明るくビューチフルになるよう頑張ります！！

2 胸毛降臨

A M 11:38 学校到着。

「この瞬間が緊張するんだよ…」

只今呉乃夾夜！！授業中の静まり反った教室にINしようとしてお
ります！！

入った時のみんなの視線にドキツとすんだよなあ…。負けるな夾夜
ツ！！こんなことでくじけては大統領なんかにはなれないぞ！！

いざ…出陣ツ！！！！

ガラッ

教室のドアを開けた。

目の前いっぱい広がったのは担任の着ているポロシャツからはみ
出た胸毛共でした。

「夾夜あ…」

担任の低い声がジワツと俺に浴びせられる。

「てめえ…毎度毎度遅刻しやが…」

「夾夜ああ！！！！！」

胸毛男の声はかきけされた。

「お前来るの遅えよッ！！何時だと思っただよ！！！！！」

「お前がいねえとデブ先が調子乗りやがってよお！！俺たちじゃタチウチできねえ！！」ちなみにデブ先と言うのは先程俺の目の前に広がった胸毛の持ち主……その名も【出武原玉尾^{でいはりたまお}】。

名前に でぶ という文字があるだけであだ名がデブの先生でデブ先になってしまった……可哀想に。

「任せろ！！！」

まあ、何だかんだ言っただ俺も乗ってるけど

「おいコラ！！デブッ！！！」

「誰がデブだあ！！！！せめて 先 を付けてください！！！」

すでに先生扱いされていないデブ……間違えた 出武先生。

「いけえええ！！！！！！夾夜ああッ！！！！！！！」

「夾夜くくくんッ！！！！！！！」

男子から女子までも夾夜に声援を送っている。

ある女子では携帯を取り出して夾夜を写メっている子もいる。

まあそれはあたりまえのことで、彼の容姿はまじパーフェクト

誰が見ても『なんなのあの子はッ！！？美しい！！美すぎるッ！

！』って思ってしまうくらい。

「呉乃夾夜ッ！！今日という今日は負けねえからなッ！！」

胸毛男ノリノリ。

授業しろよな…それでも先公か。ま、授業潰れるからいいけど。

「死ね胸毛ええええ！！！！！！！！！！」

こうして彼の1日が過ぎていく。

「あゝあゝあゝあの胸毛野郎…あっちむいてホイのレベル上げやが
つたな…」

昼休み。

とくにすることもなく、ただ廊下を歩いていた。

辺りをキョロキョロと見回す。

教室でお喋りをしている者や校庭で遊んでいる者と色々いる。

俺は…何すりゃいいんだろ…。

窓から空を見上げた。

濃い青に真つ白な雲がフワフワと泳いでいる。

ああ、俺も空に浮いてみてえ……。

「…俺バカか。そんなことできるわけないっつーの。」

空に背を向けた。

☞ 助けて~~~~☞

「羽でもありやな」

「ぎゅあぁあぁ……! ! ! ! ! ! ! ! ! !」

「ぎゅあ？？」

空の方に振り向いた。

「なッ!!」

俺の目の前には今度は胸毛じゃなく、白い綺麗な羽が目の前いっぱい広がった。

2 胸毛降臨（後書き）

神じゃなくて胸毛が降臨！！？汗

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5521a/>

タマテBAKO

2010年10月9日22時01分発行